

しょうがっこうをおくる会 様



オーダーメイド・プロジェクト
ネパールにおける災害に強い学校づくりプロジェクト
【完了報告書】



ネパールの子どもたち(イメージ)

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
2021年7月29日

■実施地域

本プロジェクトは、ネパールのスンサリ郡ラムドゥーニ市マルチャイヤで実施いたしました。



【プラン・インターナショナルのネパールでの活動】

- 1978年より活動を開始
- 現在はラリトプールにある国統括事務所と5つの現地事務所を拠点として住民参加型開発活動に取り組む

■ 背景

【国】

- 全人口の80%が農村部で生活。1日1.25米ドル以下で暮らす貧困層は約25%
- 頻発するストライキ、道路封鎖、電力・燃料不足、自然災害等で経済状況は厳しい
- 人間開発指数では、ネパールは189カ国中149位（国連開発計画：人間開発報告書2018）とアジアのなかでも、もっとも低い国のひとつ
- 都市部と農村部の経済格差が拡大している。また社会的弱者とされる子ども、女性、少数民族、カースト制度外にあり差別を受けるダリットの人々等が開発から取り残されている

【実施地域／スンサリ郡ラムドゥーニ市マルチャイヤ】

- コミュニティの人口は約3,000人
- ほとんどの住民はタライ溪谷の先住民族、タルー族に属している
- 住民の多くは農業や日雇い労働、または海外への出稼ぎに従事している
- 2018年には識字率が95.5%に達したが、障がいのある子どもたちやダリットに属する子どもの多くは学校に通えていない

【対象校の状況】

- 就学前教育から12年生までの児童553人(うち女の子299人)が通っている
- 脆弱な学校運営体制が高い中途退学率につながっている
- 雨期には屋根や窓から雨漏りしてしまい、換気も採光も不十分である
- すべての教室の老朽化が激しいため、小さな地震への耐震性もなく子どもたちにとってとても危険な環境となっている



シュリーチャンドラカマル学校に通う子どもたちが安心して学ぶことができる
学習環境の整備が早急に必要である

■プロジェクト概要

項目	内 容
目標	子どもたち、特に障がいのある子どもが安心して学べる耐震性の ある教室を建設し、学習環境を整備する
実施期間	1年間(2020年6月～2021年5月)
対象者	就学前・初等教育対象の子ども 114人(うち女の子69人) 教師、学校運営委員会、PTA、教育行政関係者28人
活動内容	• 3つの教室の新設(就学前教育～2年生用) • 安全用品※1の支給 • 学用品や備品の支給※2

※1提案書には「防災用品の支給」を活動内容に含んでおりましたが、こちらは建設時の「安全用品」と確認されましたため、表記を変更しております

※2校舎建築費用の余剰資金が発生しましたので、教室に必要な学用品や備品の購入に充てさせていただきました

■ 経過

2020年6月に開始した本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響を受け多少の遅れはあったものの、2021年5月末日に無事に終了いたしました。

実施計画の策定

2020年6月

- シュリーチャンドラカマル学校運営委員会および自治体とともにプロジェクトに関する調整会議を実施。
- 自治体の基準に基づく学校建設計画を策定。

建設工事

2020年8月～2021年5月

- 自治体関係者代表、学校運営委員会、コミュニティ住民参加のもと、2020年8月に着工式を行い、建設作業が開始した。
- 建築に携わる業者には安全用品を支給した。
- 点字タイル、手すり、スロープなどを設置し、通常の校舎に比べ、障害のある子どもにとってのアクセシビリティを改善。ラムドゥーニ市内の学校で車いす用のスロープが設置されている数少ない学校のひとつとなる。
- 子どもたちが衝突などして怪我をしないよう、校舎内のコンクリート、木材、金具が突出している箇所を補修し、安全性を強化した。
- 子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう、校舎内の壁にはイラストや文字などをペイントした。
- 工事は順調に進み、校舎は5月に完成した。



建設中の校舎

モニタリング

2020年8月～2021年5月

- プラン職員や土木技師とともに、周辺地域住民も建設現場のモニタリングを定期的に行った。
- 2021年1月には市長、副市長、郡職員らも建設現場を訪れた。

学用品や備品の 支給

2021年5月

- 新校舎内の3教室に対して、以下を含む学用品、遊具、備品を配布した。
 - 学習用モニター
 - 教室用備品（丸テーブル、クッション、本棚、靴入れなど）
 - 絵本、学習図書、文房具
 - 簡易シーソー、滑り台、ボードゲーム等

落成式

2021年6月

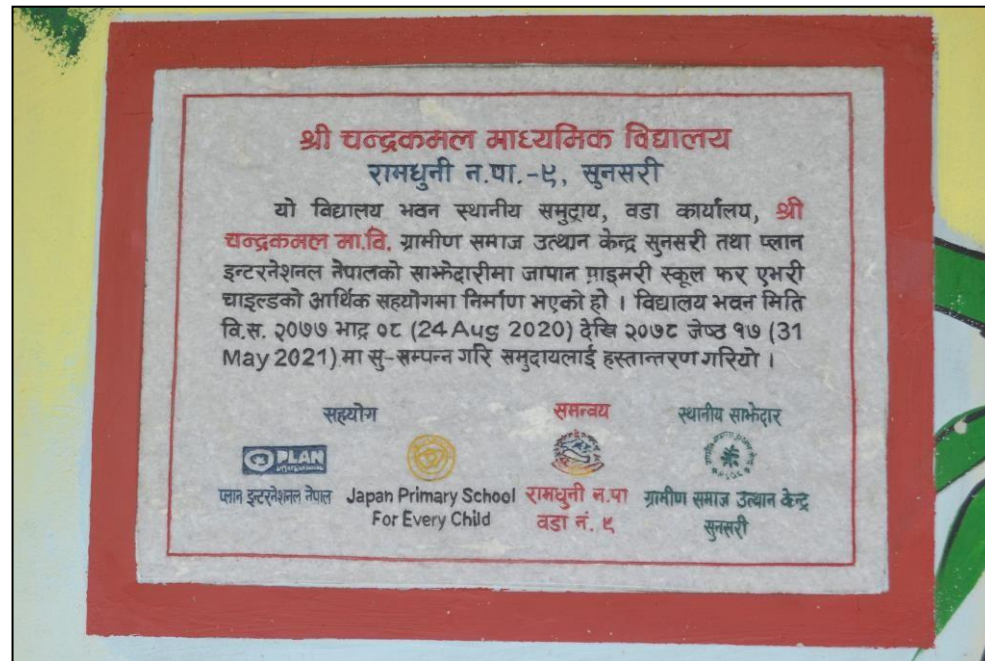
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、落成式を開催することはできなかったが、校舎の学校管理委員会への引き渡しはすでに完了している。

【記念プレート】



完成した校舎。校舎の壁面には貴重なご支援に感謝して記念プレートが設置された。

* 屋根に見えている鉄筋は、今後の2階部分の増築に備え残しています



プレート訳:

チャンドラカマル学校 ラムドゥーニ市 スンサリ

この教室は、しょうがっこうをおくる会様の資金援助を受け、地域住民、学校、ラムドゥーニ市、プラン・インターナショナル・ネパールの協力のもと建設されました。この教室は2021年5月31日に地域住民への引き渡しが完了しています。



点字ブロックや手すり



教室には遊具や備品を配置

■ 成果

- スンサリ郡ラムドゥーニ市内のシュリーチャンドラカマル学校内に、災害に強く、障害のある子どもたちを考慮した3教室が建設された。また、教室には遊具、備品、学用品が配置され、校舎の壁にはイラストを含むカラフルな塗装を行った。これらの教室は就学前児童および小学校2年生までの子どもたちが使用する予定である。
- 今回の支援を通して、ジェンダーや障害の有無に関係なく、安全かつ安心な環境のもとでより多くの子どもたちが学ぶことが可能になった。また、就学前児童への教育の充実が見込まれることから、初等学校への就学率の向上も期待される。

■ SDGs(持続可能な開発目標)への貢献

本プロジェクトの実現は、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)※ の
目標4「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」 目
標5「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
目標10「国内および国家間の格差を是正する」
に貢献します。

- 本プロジェクトでは、事業対象地の子どもたちが、自然災害の脅威から守られ、明るく楽し学び続けられるような新校舎を建設した。また、障害のある子どもたちが通いやすくなるように、手すり、スロープ、点字タイルなども設置した。
- 本プロジェクトの対象地域では男の子はより質が高いとされる私学の学校に通う傾向が強く、公立校には女の子が集まりやすい傾向がある。本プロジェクトはそのような傾向のある公立の学校を対象とし、より多くの女の子が安全な環境のもと質の高い教育を継続して受けられるようになるように支援した。
- 対象事業地内にはカースト制度外にあり差別を受けやすいダリットの人々も多く暮らしている。そのような地域の学校を支援することにより、出自に関係なく誰もが質の高い教育にアクセスできる環境を整備した。

※SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は、2015年9月に国連の全加盟国193ヶ国によって承認。2030年までに「誰も置き去りにせず世界から貧困を根絶する」こと、そして「地球を持続可能なものにする」ことを目指している。17の目標と169のターゲットから構成され、教育、保健・衛生、ジェンダー平等、雇用改善などとともに、気候変動、都市問題、生態系の保全、平和構築など、社会・経済・環境という3つの側面を含む包括的な内容となっている。プランはこのSDGsに呼応しながら活動を継続。

■ 現地の声

新しくなった校舎を使うのが楽しみです

「モンスーンの季節には、以前の校舎で授業を行うのはとても大変でした。屋根がプラスチックのシートだったので、雨が降るととてもうるさかったのです。夏には暑さで体調を崩す子どもたちもありました。

校舎が新しくなり、子どもたちが新しい教室に喜ぶことを考えるだけで嬉しいです。このような新しい校舎はコミュニティの小さな子どもたちにもとても大切なのです。

建設に関わったすべての方たちにとても感謝しています」

(ラリタ・クマリ／教師)



「新しい教室で勉強することができるなんて嬉しいです。教室は広々としていて天井にファンがあり、窓も大きいので、夏でも勉強しやすくなると思います。早く学校に再開してほしいです。教室を支援くださったみなさんにお礼を伝えたいです」

(ラクシミー／1年生の女の子)



「僕の妹が新しい校舎を使います。前の校舎では妹は暑くてよく泣いていました。新しい校舎は明るくて綺麗でとても嬉しいです。妹も新しく快適な教室を絶対気に入ると思います」

(ケシャフ／4年生の男の子)



「新しい教室にはテレビがあることを聞きました。小さな子たちもみんな喜ぶと思います。私がもっと小さかったころに、綺麗で快適な教室ができていたら良かったのにも思ったけど、弟や妹が新しい教室を使えるのであれば私も幸せです。新しく安全な教室がコミュニティ内にできて本当に恵まれていると思います」

（プラクリティ／4年生の女の子）



「以前の校舎は地震の被害を受け、子どもたちにとって安全な環境ではありませんでした。校舎の外で教えるということもありました。校舎の建設はプランの協力のもと、みんなで力を合わせて期間内に終わらせることができました。

支援が本当に必要なコミュニティの中に校舎を建設してくださった方たちに感謝しています。私たちは支援を受けることができとても幸運でした」

（マヤラム・チャウダリー／教頭）



ネパールにおける災害に強い 学校づくりプロジェクトへの ご支援をありがとうございました



■ 問い合わせ先
プログラム部：深瀬 泰子
TEL: 03-5481-7100 / 080-7739-3430
FAX: 03-5481-6200
Email: yasuko.fukase@plan-international.jp